

北海道浮魚ニュース

令和 8 (2026) 年度 9 号

2026 年 7 月 31 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

7 月 31 日、第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期前半（8～9 月）の予報です。

なお、この予報は国立研究開発法人水産研究・教育機構と太平洋側道県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>)

「我が国周辺の水産資源の評価 漁況予報」 (<http://abchan.fra.go.jp/gk/>)

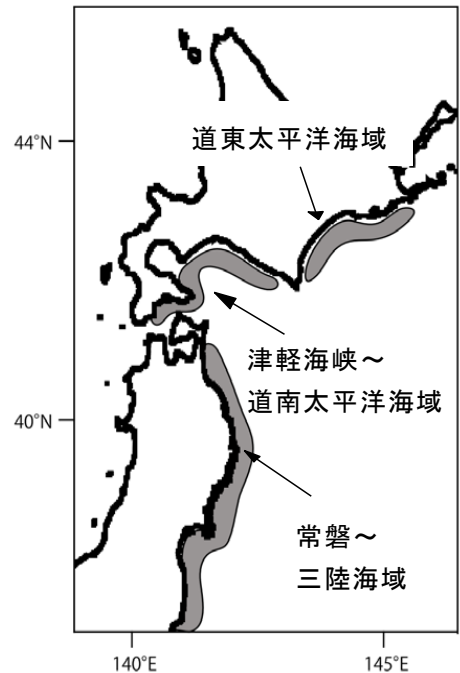
今後の見通し（2026 年 8～9 月）の概要

対象魚種：スルメイカ

対象魚群：冬季発生系群（2026 年級群）

- ・道東太平洋（小型いか釣り、底びき網）
来遊量は前年を下回る。漁場形成は散発的で明瞭な主漁期はない。
- ・津軽海峡～道南太平洋海域（小型いか釣り、定置網）
来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場となる。
- ・常磐～三陸海域（小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網）
来遊量は前年を上回る。対象期間を通じて漁場となる。

※文中の「前年」は 2025 年のことです。



・漁況は 5 月下旬～7 月上旬に実施した太平洋及び日本海のスルメイカ漁場一斉調査ならびに日本海スルメイカ北上期調査の結果（北海道水試調査分は浮魚ニュース第 3 号、4 号、6 号参照）と、各港の漁獲状況から予測されました。

・各地の漁獲量及びいか釣り調査の結果から、太平洋の沿岸を北上する群の来遊量は前年を上回り、沖合では前年を下回る。日本海から津軽海峡を通じて来遊する群の来遊量は前年と同程度の低い水準と予想されました。このことから、今回の予報期間におけるスルメイカの来遊量は道東太平洋海域で前年を下回り、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並と考えられます。

・8 月上旬の道東沿岸域の水温は前年より低くなると予想されており、漁場形成は散発的になると予測されています。

（釧路水産試験場調査研究部 TEL：0154-23-6222、

FAX：0154-23-6225）



地方独立行政法人
北海道立総合研究機構